



## 芳村 毅 「化学的手法による水域生態系の理解」

水産科学研究院 海洋生物資源科学部門 海洋環境科学分野

email: yoshimura-t※fish.hokudai.ac.jp (※を@に)

研究室HP <https://hokudai-yoshimura-takeshi.jimdo.com/>

出身地 北海道札幌市

### ○キャッチコピー

各種化学分析から海域，湖沼，河川の環境を評価します

### ○概要

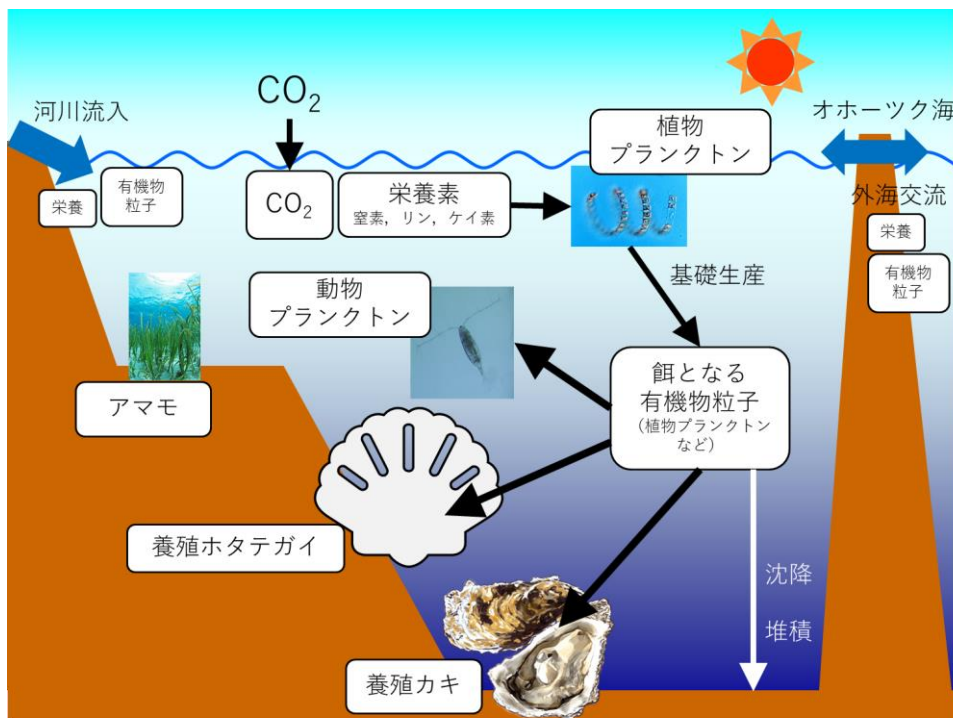
水域の生物生産性，漁業生産性は光合成生物(基礎生産者)に支えられています。基礎生産過程の理解には栄養塩類など水中の化学成分の分析と，その結果の適切な解釈が必要です。現地調査，化学分析からデータ解析までを一貫して実施します。

### ○研究の内容紹介

一例として【北海道サロマ湖のホタテガイ養殖を支援する環境調査】を紹介します

- ◆ サロマ湖は日本を代表するホタテガイ養殖の場であり，湖内での年間約7千トンの生産に加え，外海へ放流する稚貝の生産場所として，オホーツク海での年間約7万トンの生産を支えています
- ◆ 漁業資源を包括的に管理し，永続的に利用していくため，漁業者がホタテガイ養殖許容量を設定し，サロマ湖の漁場管理を行っています
- ◆ 当研究室はサロマ湖養殖漁業協同組合と協力し，養殖許容量を算定するための環境モニタリングを実施しています

## 【北海道サロマ湖のホタテガイ養殖を支援する環境調査】



船舶を用いた現地調査を行い、海洋環境を構成する各要素、プロセスを定量的に評価し、生態系の構造や機能を評価します

### ○社会実装への可能性

1. 海洋環境モニタリングの立案から実施まで
2. 二枚貝養殖における環境収容力の評価
3. ブルーカーボン(海洋生態系による炭素固定能)の評価によるカーボン・オフセットあるいはカーボン・クレジットの獲得

### ○産業界や自治体等へのアピールポイント

水質分析から生態系評価までを一貫して行います